



駒本の力

駒本小学校(家)

教育活動紹介便り

NO. 45

平成 29 年 5 月 18

読書の質を高める

校長 田中 克昌

本年度駒本小は、全ての教職員が担当する分掌（職務）において、「一歩先の質の向上」を目指しています。授業力の向上においては、駒本小の授業スタイル（ユニバーサルデザイン化、個に応じた支援）を確実に身に付けた上で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて努力をスタートさせています。また、生活指導においては、定着してきた挨拶やくつピタの活動の上に、子どもたちの言葉遣いの指導に重点的に取り組み始めています。さらに、校務分掌（教員が担当する校内の職務）においても、それぞれの教員が質の向上に取り組んでいます。様々な取り組みの中から、今回は「読書の質を高める」ために、駒本小ではどんな取組が実践されているかについて紹介します。

駒本小では朝読書をととても大切にしています。週に3回の朝読書を実施している学校は

多くありません。それだけ読書活動に力を注いでいると言うことが分かります。読書や朝読書の効果については、ここで紹介するまでもなく、多くの効果があげられています。子どもたちの将来の主体的な学びのために、駒本小では読書活動を推進してきました。しかし、これまでの取組では子どもたちの実態から、いくつかの課題も見えてきていました。そのいくつかの課題を解決していくための取組が読書の質を高める取組となっています。具体的な取組を紹介します。

教職員向け

平成 29 年 4 月 17 日
文京区立駒本小学校
図書担当
NO. 1

☆図書だより☆

今年度は、読書の質の向上を目指します。

【取り組み・その1】 図書館支援員と教員がつながる。

図書館支援員の〇〇さんは、月火水金に勤務してくださっています。
(勤務時間は、その日ごとに異なります。中休みと昼休みにはいらっしやいます。)
こんな内容の本がほしいということをお伝えするだけで、あらゆる知識をフル活用して、資料を用意してください。そして、何より本校の読書活動の充実に意欲的に取り組んでくださっている方です。ぜひ、先生方から図書室に足を運んでください。
☆〇〇さんに急ぎの伝言がある場合は、図書担当にお伝えいただければ、伝言をします。

支援員の勤務時間の都合上、直接依頼等ができない場合は、図書担当まで連絡をください。(連絡カードを検討中。)

支援員からのお返事や連絡を
図書担当より担任へお伝えします。

図書担当教員

教員

図書室支援員

担任から支援員に直接依頼ができます。

【取り組み・その2】 4月中に朝の読書スタイルを身に付けさせる。

①朝読書の10分間、集中して読書をする。

離席せずに読書ができるように、各学級で工夫をしてください。
例：・朝の支度が終わった児童から本を準備する。準備ができた児童から読書をさせる。
・読む本をあらかじめ数冊準備しておく。
・図書室から本を借りたり、家から本を持ってきたりする。

②図書室の使い方等のオリエンテーションを図書館支援員に依頼をする。

・所要時間は、1単位時間ですが、最短で25分程度です。
どうしても、時間が確保できない場合は、朝読書の時間から行うことも可能です。
その場合は、図書館支援員の勤務時間を変更する必要があるのでは、ご相談ください。
・できるだけ5月までに実施してください。

1. 図書だよりの発行

図書担当の主任教諭は教職員向けに定期的に「図書だより」を発行しています。これは教職員への啓発を意図し、図書担当の取組を広く伝える役割をもっています。

2. 学校図書館支援員と教員の連携

文京区では、学校図書館支援員（図書司書）が各校に配置されています。この支援員の方と教員がいかに関係をとるかによって、子どもたちの読書の質は変化しますし、様々な教科の学習においてもこの連携は大きな力となります。

学校図書館支援員の独自の取組もありますが、教員のオーダーに対応してもらえるよう、オーダーカードで連携を強化しています。例えば、「6月の社会科の学習で日本の工業について学習するので、関連図書を準備してください。」とオーダーすると、学校図書館支援員さんがその準備をしてくれます。今まで担任がしなければならなかったことを学校図書館支援員さんに依頼できるということは、とても画期的なことです。

3. 4月中に朝の読書スタイルを身に付けさせる

毎週3回の朝読書の時間の質の向上のために、朝読書の10分間、集中して読書することを当初の目標としています。そのために、朝の支度が終わったら児童に読む本を準備させる。読む本をあらかじめ数冊準備させておく。図書室から本を借りたり、家から本を持ってこさせたりする。等の具体的な取組を紹介し、各担任に実践してもらっています。

4. こども読書週間の取組

こども読書週間には図書室において特別企画（本の福袋）を実施しました。図書館支援員さんが選択した2冊の本を福袋という状態で、中は分からないけれど、どんな本が読めるか楽しみ、という形での貸し出しです。

5. 図書室で本の予約ができるようにしました

昨年度、貸し出されている本を次に借りたいという要望が、図書館支援員に寄せられたことから、今年から図書室の本を予約できるシステムをつくりあげました。

6. 児童の読んでいる本など、読書に関して教員と児童が会話をする

読書の質を高める最も有効な方法は、読書の話をお互いがするということです。子ども同士はもちろん、担任の先生と子どもたちとの対話も重要です。子どもたちが読んでいる本をとりあげて、その本の紹介をしたり、先生が今自分が読んでいたり、過去に読んだ本を紹介することで、子どもたちはその本を読みたいと意欲を高めます。ブックトークというのですが、そんな堅苦しいことではなく、日常的に本について話すことが大切です。

以上のように、読書の質を高める、ということだけでも駒本小ではこれだけの取組を行っています。ご家庭でもいろいろと試していただきたいと思います。

ちなみに、田中は最近、「罪の声」というグリコ森永事件を扱った本を読みました。事件の真相に迫る新聞記者の生き様と事件に絡む人々の人生を読み取ることができ、とても充実した読書になりました。みなさんにもお勧めです。